

【佳作（環境生活部長賞）】

## 海を守るためにできること

仙台市立郡山中学校

三年 鷹たか島しま 唯ゆい

私は二年生の冬休み、岩手にある祖父母の家に家族四人で行きました。途中、サービスエリアに寄ると、雪がたくさん積もっていて弟と二人でほったり上にのぼったりしていました。その時に、雪の中からタバコのゴミがいくつか出てきました。また、祖父母の家に向かう道路にもタバコやカイロのゴミが落ちていました。親や祖父母に聞くと、長い休みの時はポイ捨てが多いということでした。そういうゴミは川に流れることが多いらしいです。私はその話を聞いて、夏に秋田にいる祖父母のところへ遊びに行つたときのことを思い出しました。

秋田の祖父母の家は海の近くで、夏はよく海に遊びに行っていました。しかし、海岸にはプラスチックの容器、ガラスの破片、ビニール袋などがたくさん落ちていて、何か履いていないとけがをしてしまいうるかもしれません。さらに、海にもビニール袋やタバコが浮いていました。こういうゴミを海洋ゴミといいます。また、海洋ゴミの内訳について調べてみると、一番多いのはプラスチックでした。人間が持ち込んだプラスチックが海に流れて、世界の環境が悪くなっていきます。

それは、海に住んでいる生き物にも影響を及ぼします。私は以前、テレビでマッコウクジラがうちあげられた話を聞いたことがあります。そのクジラの中からは百十五個のプラスチック、四個のペットボトル、二十五枚のレジ袋、二足のビーチサンダルが出てきたそうです。私はクジラの中から人間が使ったゴミが大量に出てきたことにぞっとしました。それに、ゴミをのみこんだのは、そのクジラだけではなく、もっとたくさん生き物が被害を受けていることに、恐怖と申し訳ないという気持ちがあふままし

た。

海洋ゴミの七〇八割は街から出ています。さらに、海に流出するゴミのうち二〜六万トン日本から出ています。私達が出しているゴミです。それが海へ流出し、海にすむ生き物が飲み込み、その魚たちを人間が釣るとしたら、結局は自分達に返ってきます。水質汚染がどんどん進み、私達も生きられなくなるかもしれません。私達には、それを防ぐ義務があると思います。一人一人が意識を変え、次の世代の未来を守る必要があります。と、いろいろ知ると改めて感じるようになりました。

私は、エコバックや3Rの取り組みの大切さを今知りました。いつも買い物をする時、予定よりも買すぎてしまい、エコバックに入らなくて、ビニール袋をもらうことが多いです。そういうことをなくしたら、海にとつてもいいことを学びました。だから、次から買物をするときには、計画通りに買物をしたり、エコバックを二つ持って行ったりしてみようと思います。また、私の家は牛乳パックや古い新聞紙が多いです。そういうものは、リサイクルに出すようにしています。それだけでも、水質汚染問題に貢献できると思うと、なんだかうれしいです。

このような小さな取り組みを皆でやってみたら、少しずつものきれいな海にもどるかもしれないし、たくさん生き物も救うことができます。それは、私達人間にしかできないことです。皆が協力して、やっと成し遂げられると思います。その行動は、クジラやマグロ、さけなどと自分達のため、何より海のためです。私は世界中で海を守る取り組みが進んだらいいと思います。そうして、海を大切にすることができて、初めてゴミを気にせずに海で遊べるような、小さな幸せにつながっていくのではないのでしょうか。海は、命が存在する上で欠かせないもの。その海を私達で守っていききたいです。